

2018年度（平成30年度）
新涯学区地域まちづくり推進事業
事業内容報告書

| 事業番号 | 事業名（内容） | 実施月日・実施場所・参加人数等 |
|------|----------------------------------|---|
| 1 | まちづくり研修 | 4/22 内子町を訪ねて 「協働のまちづくりの成功事例」 90人 |
| 2 | 地域防災向上事業 | 11/18 「総合防災訓練」 約800人 |
| 3 | グラウンドゴルフ | 6/10 小学校グラウンド 10/27 新涯四丁目公園 延べ250人 |
| 4 | 青少年健全育成事業 | 8/20 肝だめし大会 54人（申込人数） （台風により中止） |
| 5 | 高齢者・成人・男の料理教室 | 7/13 シニア料理教室 9/11 シニア料理教室 各20人程度 |
| 6 | 新涯カルチャールーム | 6/28 和紙で作る蓮の花飾り 12人 9/27 タイルクラフトの鍋敷き 20人 10/18 ポーセラーツ 11人 |
| 7 | 地域連携・絆を深める事業 | 6月～ インターネットデータ通信 12月 ホームページ立ち上げ 3/6 ふれあいコンサート 新涯幼稚園 約120人 |
| 8 | 夏まつり盆おどり大会 | 7/25 踊りの練習 公民館会議室 約70人 8/1 小学校体育館 約150人 8/4 盆おどり大会 小学校グラウンド 約2,500人 |
| 9 | 環境保全づくり事業 | 6/3 学区一斉清掃 10/28 " 延べ500人 |
| 10 | ふれあいフェスタ | 11/3・11/4 作品展 小学校体育館 約1,000人 11/4 イベント・バザール・作品展 小学校グラウンド、体育館 約3,500人 |
| 11 | 子育て支援事業 | 6/21 スピードクッキング 9/18 絵本の読み聞かせ 子育てサークル育成支援 |
| 12 | 安心・安全を高める事業 | 防犯対策啓発用横断幕（10枚） " のぼり旗（20枚） |
| 13 | 心とからだの健康づくり事業 | 7/23～8/10 ラジオ体操 新涯公民館 延べ約500人 10/24 背骨コンディショニング 34人 12/7 腹式呼吸法のススメ 23人 |
| 14 | ばら花壇づくり | 通年 公民館花壇、臨海地域 |
| 15 | コミュニティー育成 （ゴミ分別・納税推進・町内清掃を含む） | 通年 東上町内会をはじめ9町内会 約3,500世帯 |

| | | | |
|----|----------------|---------------|-------|
| 16 | とんど祭り | 1/20 小学校グラウンド | 約600人 |
| 17 | まちづくり推進委員会運営事業 | 通年 | 公民館 |
| 18 | まちづくり計画に基づく事業 | | |

| | |
|-------|---|
| 成果と課題 | <p>成果</p> <p>まちづくり研修では、愛媛県の内子町を訪ね、行政との協働による「住民主体のまちづくり」として、その成功事例と今後の地域活性化のための施策を実際に現地で学び、新涯学区の未来を考えるきっかけとすることができました。</p> <p>また、今、地域で最も関心の高い「防災」について、地震による津波と集中豪雨による洪水を想定した大規模な「総合防災訓練」を福山市消防局及び消防団川口分団のご協力をいただく中で行いました。緊急時の情報伝達、避難誘導、救出救護、救助応急処置、消火、防災資器材の操作訓練などを行い、学区住民の防災意識の高揚を図ることができました。</p> <p>新涯カルチャールームでは、住民のニーズに反映した講座を計画実施し、参加者同士のつながりも深まりました。</p> <p>新たな広報活動の手法としてホームページを立ち上げるとともに、委員会の5部会が事業計画段階から参画し、より積極的かつ活動しやすい部会としたところ です。</p> <p>夏祭り盆おどり大会では、今年度新たな踊りとしてとりわけ若者に人気の高いダンシングヒーローを取り入れ、これまでにない盛りあがりを感じることができました。その他、ふれあいフェスタなど新涯学区の恒例となっている行事等を通じて、各種団体や地域住民の協力による自主的・主体的な活動により、地域活動の活性化を図るための連携と意識を高めることができました。また、4回目を迎えた「とんどまつり」は、あいにくの雨にもかかわらず多くの参加者を得て盛り上がりました。今後も地域住民の絆を一層深めるための行事として伝承活動を続けていきます。</p> <p>課題</p> <p>行事の参加者が拡大していないことから、より多くの参加者を得られるよう、ホームページの有効的な活用や、5部会の活動をより活性化して、住民のニーズに的確に応えられるような事業を展開していく必要があります。</p> <p>今後は、中学生ボランティアだけでなく、継続して大人のボランティアを幅広く募集し、行事やイベントを活性化させる必要があります。</p> |
|-------|---|